

令和4年8月10日

各位

トモニホールディングスグループの令和5年3月期第1四半期決算概要について

トモニホールディングス（本社：香川県高松市、社長：中村 武）は、令和5年3月期第1四半期（令和4年4月1日～令和4年6月30日）連結業績等の概要と、当社グループの中核企業である徳島大正銀行（本店：徳島県徳島市、頭取：板東豊彦）及び香川銀行（本店：香川県高松市、頭取：山田径男）の単体業績等の概要について発表いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. トモニホールディングス

(1) 令和5年3月期第1四半期（令和4年4月1日～令和4年6月30日）連結業績

当第1四半期における損益状況は、経常収益は、貸出金利息、有価証券利息配当金及び株式等売却益が増加したこと等により、前年同期比1,059百万円増加して18,337百万円となりました。経常費用は、国債等債券売却損が増加したこと等により、前年同期比1,885百万円増加して13,616百万円となりました。その結果、経常利益は、前年同期比827百万円減少して4,720百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比1,202百万円減少して3,287百万円となりました。

当第1四半期末における主要勘定残高の状況は、総資産残高は、前年度末比603億円増加して4兆6,563億円、純資産は、前年度末比54億円減少して2,403億円となりました。また、譲渡性預金を含む預金等残高は、前年度末比713億円増加して4兆1,334億円、貸出金残高は、前年度末比370億円増加して3兆2,669億円、有価証券残高は、前年度末比269億円増加して7,547億円となりました。

		令和5年3月期 第1四半期	
			前年同期比
損益	経常収益	18,337百万円	1,059百万円
	経常費用	13,616百万円	1,885百万円
	経常利益	4,720百万円	△827百万円
	親会社株主に帰属する四半期純利益	3,287百万円	△1,202百万円
		令和5年3月期 第1四半期末	
			前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	46,563億円	603億円
	純資産	2,403億円	△54億円
	預金等（譲渡性預金を含む）	41,334億円	713億円
	貸出金	32,669億円	370億円
	有価証券	7,547億円	269億円
	自己資本比率（国内基準）	8.81%	△0.03%

(2) 令和5年3月期（令和4年4月1日～令和5年3月31日）連結業績予想

令和4年5月13日に公表しております令和5年3月期第2四半期累計期間及び通期の連結業績予想（経常利益及び親会社株主に帰属する当期（中間）純利益）につきましては、修正ございません。

2. 徳島大正銀行

(1) 令和5年3月期第1四半期（令和4年4月1日～令和4年6月30日）単体業績

当第1四半期の損益状況は、経常収益は、貸出金利息及び株式等売却益が増加したこと等により、前年同期比1,056百万円増加して9,644百万円となりました。

また、コア業務粗利益は、資金利益が増加したこと等により、前年同期比26百万円増加して7,467百万円となり、銀行本業の収益を示すコア業務純益は、経費が減少したこと等により、前年同期比66百万円増加して2,915百万円となりました。

経常利益は、国債等債券売却損及び与信関連費用が増加したこと等により、前年同期比751百万円減少して2,466百万円となり、四半期純利益は、前年同期比645百万円減少して1,865百万円となりました。

当第1四半期末の主要勘定残高の状況は、譲渡性預金を含む預金等残高は、個人預金等が増加し、前年度末比416億円増加して2兆3,115億円となりました。預り資産を加えた総預り資産残高は、前年度末比387億円増加して2兆4,284億円となりました。また、貸出金残高は、新型コロナウイルス感染症対応融資をはじめ、中小企業・個人向け貸出等に積極的に取り組みました結果、前年度末比145億円増加して1兆8,417億円となりました。なお、自己資本比率（国内基準）は8.05%となりました。

金融再生法開示債権額は、前年度末比393百万円増加して33,138百万円、総与信に占める割合は1.77%となりました。

		令和5年3月期 第1四半期	
			前年同期比
損益	経常収益	9,644百万円	1,056百万円
	コア業務粗利益	7,467百万円	26百万円
	コア業務純益	2,915百万円	66百万円
	経常利益	2,466百万円	△751百万円
	四半期純利益	1,865百万円	△645百万円
	本業利益	1,781百万円	228百万円
	与信関連費用	9百万円	231百万円
		令和5年3月期 第1四半期末	
			前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	26,052億円	517億円
	預金等（譲渡性預金を含む）	23,115億円	416億円
	総預り資産	24,284億円	387億円
	貸出金	18,417億円	145億円
	有価証券	4,222億円	300億円
	自己資本比率（国内基準）	8.05%	△0.02%
不良債権	金融再生法開示債権額	33,138百万円	393百万円
	総与信に占める割合	1.77%	0.01%

3. 香川銀行

(1) 令和5年3月期第1四半期（令和4年4月1日～令和4年6月30日）単体業績

当第1四半期の損益状況は、経常収益は、貸出金利息及び有価証券利息配当金が増加したものの、国債等債券売却益及び国債等債券償還益が減少したこと等により、前年同期比157百万円減少して6,940百万円となりました。

また、コア業務粗利益は、資金利益が増加したこと等により、前年同期比268百万円増加して5,993百万円となり、銀行本業の収益を示すコア業務純益は、経費が減少したこと等により、前年同期比327百万円増加して2,344百万円となりました。

経常利益は、債券関係損益が減少したこと等により、前年同期比88百万円減少して2,205百万円となり、四半期純利益は、前年同期比528百万円減少して1,424百万円となりました。

当第1四半期末の主要勘定残高の状況は、譲渡性預金を含む預金等残高は、個人・法人預金ともに増加し、前年度末比296億円増加して1兆8,268億円となりました。預り資産を加えた総預り資産残高は、前年度末比261億円増加して1兆9,641億円となりました。また、貸出金残高は、新型コロナウイルス感染症対応融資をはじめ、中小企業・個人向け貸出等に積極的に取り組みました結果、前年度末比225億円増加して1兆4,340億円となりました。なお、自己資本比率（国内基準）は9.52%となりました。

金融再生法開示債権額は、前年度末比351百万円増加して26,291百万円、総与信に占める割合は1.79%となりました。

		令和5年3月期 第1四半期	
			前年同期比
損益	経常収益	6,940百万円	△157百万円
	コア業務粗利益	5,993百万円	268百万円
	コア業務純益	2,344百万円	327百万円
	経常利益	2,205百万円	△88百万円
	四半期純利益	1,424百万円	△528百万円
	本業利益	1,219百万円	133百万円
	与信関連費用	△45百万円	△109百万円
		令和5年3月期 第1四半期末	
			前年度末比
主要勘定残高・諸比率	総資産	20,475億円	96億円
	預金等（譲渡性預金を含む）	18,268億円	296億円
	総預り資産	19,641億円	261億円
	貸出金	14,340億円	225億円
	有価証券	3,307億円	△31億円
	自己資本比率（国内基準）	9.52%	△0.05%
不良債権	金融再生法開示債権額	26,291百万円	351百万円
	総与信に占める割合	1.79%	0.00%

以上

【本件に関するお問い合わせ先】

トモニホールディングス株式会社 経営企画部	TEL：087-812-0102
株式会社徳島大正銀行 企画部	TEL：088-656-1118
株式会社香川銀行 総合企画部	TEL：087-812-5132